

異文化との交流

団長 高岡 修司

平成30年度尼崎市青年使節団の団長として、姉妹都市であるドイツのアウクスブルク市を訪問しました。

当初は、9月9日に関西国際空港を旅立ち10日にアウクスブルク市に到着する予定でしたが、9月4日に上陸した大型台風21号の影響で関西国際空港が浸水・停電・事故の影響で全面閉鎖となり、航空チケットもなかなか確保できないなか、我々の使節団も余儀なく出発日を1日遅らせ、経路も成田経由に変更せざるをえませんでした。

こうして、紆余曲折ありはしましたが、我々は待ちに待ったアウクスブルク市へと旅立ち、11日の朝ミュンヘン空港に到着しました。

アウクスブルク市とは、昭和34年に姉妹都市提携を結んで以来これまで親善交流を深め、来年で60周年を迎えます。そのため、今回の青年使節団の交流事業は、団員のサポートは勿論のこと両市との調整も含め責任の重さを感じ出発しましたが、アウクスブルク市の皆様のおもてなしや美しい町並みに魅せられ、いつしか緊張が楽しみに変わっていききました。

地震の少ないアウクスブルク市内の建造物は、歴史を感じるものばかりで、市庁舎のすぐ前にはアウグストゥスの泉があり、シェッツラー宮殿や大聖堂など数えきれない文化遺跡が町のなかに点在しており、道路に関しても市中心街では、アスファルト舗装ではなく石畳の道路が連なり、まるで中世からタイムスリップしたような趣がありました。

また、アウクスブルク市の人々は、非常に親切で誰もが優しく接してくださいました。特に、グリーブル市長をはじめホストファミリーや市職員の方々は、台風21号の影響で当初の日程が大幅に変わったことで無理を強いられたにもかかわらず、尼崎市と長浜市の日程にご配慮いただき、我々は、当初の目的を概ね遂行できました。

滞在中の訪問した施設の子細については、団員の報告書を読めば分かっていたかと思しますので、私は、今回の使節団のお世話をさせていただいた皆様との思い出を報告させていただきます。

皆さんに共通して言えることは、非常に世話好きで自分事として捉え、人の意見を尊重するという人柄です。「違います。」「駄目です。」という発言は殆どなく、自分の意見は発言されますが、人の意見を否定することはありませんでした。使節団の日程が終了すると毎夜関係者の皆様との夕食会を開催していただくのですが、2日目の夕食会で、市長スピークスマンのゲアリッヒさんが、民主主義について質問されました。「民主主義にとって一番大切なことは何ですか」と問われました。「国民の意見を反映させることですね」と答えると「ドイツは、過ちを幾度となく繰り返した。ドイツ人ではないが、ヒトラーはミュンヘン事変から勢力を拡大し、大量虐殺や戦争を引き起こした。我々は過去の過ちを決して忘れない。そのためには、多数決は駄目で、少数の意見を尊重する民主主義が必要だと考

えている。」とおっしゃいました。私自身は、大多数の意見を尊重することが重要だと考えていましたし、国会審議においても、市議会の決定においても意見が分かれた場合は多数決で決定されます。民主主義の在り方については諸説多数の考え方がありますが、アウクスブルク市民の平和・人権に対する考えの深さを思い知らされるとともに、尼崎市や長浜市とアウクスブルク市との姉妹都市提携のきっかけは、ディーゼル博士と山岡孫吉様との縁がもたらしたものでありますが、アウクスブルク市や中国鞍山市との交流の意義がもっと深いものであると痛感しました。(アウクスブルク市から尼崎市に来られる使節団は、まる一日を費やし必ず広島原爆ドームを視察されます。)

最後になりますが、今回の使節団の団員たちも、アウクスブルク市のホストファミリーの皆様のおもてなしに触れて、それぞれが多彩な国際感覚を身につけ、真の優しさや思いやりに接し絆を深め、帰国の際には、顔つきや態度が出発前とは見違えるほどになっていました。当初のミッションである姉妹都市提携60周年の調整を十分果たせたとは言えませんが、今回参加した団員の成長が最大の収穫であったことは言うまでもありません。今回の経験を糧に団員達が尼崎市を牽引してくれることを期待して報告を終わらせていただきます。